



トマト育苗コストの軽減と、作業労力の省力化。そして高品質の育苗が可能になります。

ポット用育苗培土

「トマト育苗培土」

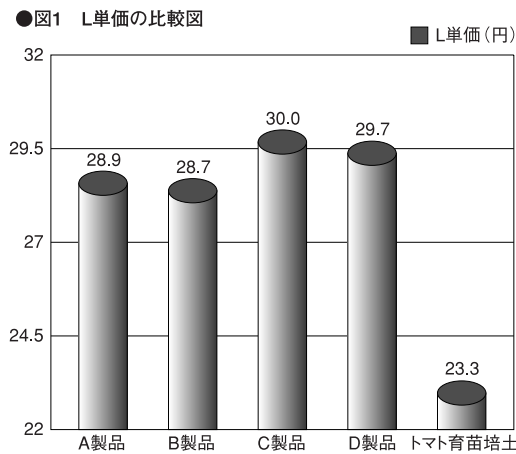
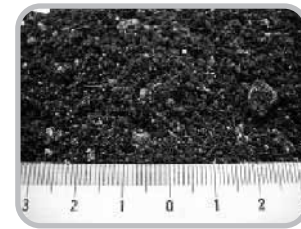
育苗に必要な成分がすべて含まれているので、このまま栽培できるのが「トマト育苗培土」の特長です。また、清潔な土を使い、適度な重みを持たせていますので、ふらつかない丈夫な苗を育てることが出来ます。道内の一般的な野菜向け培土と比べ、約20〜30%もお買得です(図1参照)。

トマト育苗培土の商品紹介

トマト育苗培土の肥料成分表示値は、肥料添加量ではなく、あえて分析例としてあります。これは培土の肥料成分というものが、添加肥料だけではなく配合原料にも大きく影響されているからです(例、リン酸吸収係数が高い土を使用した場合、添加したリン酸肥料が土に固定されてしまう)。

通常の育苗環境と管理では35日間の肥効があるので、基本的に追肥の心配はいりません。

造粒されている培土と同等の透水性を実現しながら、十分な保水性を持つように配合設計された培土なので、育苗管理がしやすくなっています。また、ポット育



森産業株式会社

トマト育苗培土の品質管理体制

各検査にはすべて自社基準を設けています。

【原料検査】

製品に使用する原料についてもすべて検査を行います。トマト培土に使用されている原料もすべてこの自社基準に適合したものです。(主な検査項目は雑草発生、線虫検査など)

【製品検査(袋詰め前)】

配合された製品について袋詰め前に基礎分析を行います。この検査に合格したもののみ袋詰めされます。

【袋詰め(ロット管理)】

袋詰め時に袋にロット番号を印字します。これによりロット管理が可能となり、袋詰め後の製品検査で何かあっても、迅速に対応することが出来ます。

【製品検査(袋詰め後)】

肥料成分などの時間のかかる分析については袋詰め後に行います。検査に不合格だったものについては回収を行います。

効果事例のご紹介

自家培土から変更したことによる苗品質の安定と省力化効果などについて、使用した生産者からは喜ばしい声があがっています。

- 「春先は何かと忙しい時期なので、面倒な自家製培土の調整が不要となつて助かった」
- 「自家製培土に比べて保水と透水のバランスが良く、苗の管理が楽になった」
- 「自家製培土と比べて雑草の心配がなく、使用して良かった」
- 「土の品質が安定しているので均一な苗ができ、出来も安定してきた」
- 「根張りが良く、定植後の活着がとても良い」

今後の展開について

トマトだけではなくキュウリやメロンといった、なす科ウリ科の野菜育苗にもご使用いただけます。草花向け育苗培土「菜花培土」もご用意しています。



●分析例

項目	水分	仮比重	pH	EC
数値	30%	0.73Kg/L	6.1	1.1ms/cm

項目/数値 (mg/ℓ)	N / 200	P / 900	K / 600

●使用原料：十勝パーク、ピートモス、焼土、火山レキ、山砂

●使用量

育苗容器	容量	数(約)
ポリポット10.5cm	0.60L	50鉢
ポリポット12cm	0.88L	33鉢
ポリポット13.5cm	1.26L	24鉢

苗で必須となるセル苗の移植に際しても、穴が開けやすく移植しやすい硬さになるようにしてあります。根張りを良くすると評判の「十勝パーク」を配合することにより、根張りの良いガツシリとした苗を育苗することが出来ます。

●製造フロー図

